

令和7年度

運営に関する計画

最終評価



令和8年3月

大阪市立三津屋小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【安全・安心な教育の推進】**

定例の生活指導部会やアンケート等で、児童の実態把握に努め、課題の共有や改善を図り、また、組織的な対応も心がけ、児童の安心・安全な生活につなげた。その結果、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について『最も』と答えた児童の割合は、学力経年調査で87.5%と目標を上回ることができた。また、なかよし班(縦割り班)活動・集団登校などを実施し、異年齢児童が常に交流し、互いを思いやる心を育てることに努めた。その結果、児童アンケートにおいて、「縦割り活動で高学年にやさしくしてもらった(低学年にやさしく接した)」の肯定的評価は95.1%、「友達の良いところを見つけている」の肯定的評価は87.4%、といずれも目標を上回った。

不登校の課題は年々多様化・複雑化し、年度末の校内調査において不登校児童の在籍比率は昨年度より増加した。今年度は、毎月実施の生活指導連絡会でより一層情報共有するとともに、継続して学校組織全体で総力を挙げて課題解決を目指し取り組んでいく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」については肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合が81%と目標を上回る結果となった。

小学校学力経年調査における「国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。」については、算数科一学年のみ向上させることができた。目標を達成することはできなかった。

小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対しての肯定的評価は84.2%であり、目標を上回った。

学校の年度目標では、校内調査における「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間におきている」と肯定的に回答する児童の割合は69.5%で目標は達成できなかった。

【学びを支える教育環境の充実】

「『学習者用端末を活用することができる』」に肯定的に回答する割合が92.6%で目標を上回った。

学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業日については1日以上設定することができた。

学校の年度目標では、「一人一台学習者用端末を使って、意見を交流することができる」の肯定的評価は78.5%であり目標を達成することができた。

3つの最重要目標のまとめとして、本年度は、個に応じた学習や基礎・基本の定着を目指した学習や授業実践に取り組んできた。

今後も個に応じた指導をより充実させ、基礎・基本の定着を図ることで学力下位層を向上させていく。そのために、朝学習の充実や家庭学習習慣の定着を図っていく。また、校内研修の充実と校外研修へのより積極的な参加を通して、各教員の指導力向上を目指す。

また、学年によって大きな差はあるものの、学校全体としては読書目標の達成率が大幅に増加した。(昨年度41.2%から今年度68.5%)

児童の生活面については、早寝が定着していない児童・保護者への個別の声掛けを続け家庭と連携し健康的な生活習慣の定着率を向上させたい。

2 年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。
- 学校アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を88%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を91%以上にする。
- 学校アンケートで「なかよし班活動で協力して（力を合わせて）楽しむことができた。」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 学校アンケートで「友達の良いところを見つけている」という旨の回答の割合を88%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を42%以上にする。
- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。
- 年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間におきていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の82%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を63%以上にする。

(1) 基準1 次のア及びイの基準を満たすこと

- ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること
- イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

- 学校アンケートにおける「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・定例の生活指導部会やアンケート等で、児童の実態把握に努め、課題の共有や改善改善を図り、また、組織的な対応も心がけ、児童の安心・安全な生活につなげた。また、あいさつ運動・集会活動・集団登校などたてわり班活動を実施することで異年齢児童が常に交流し、互いを思いやる心を育てることに努めた。結果、「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、85.9%であった。学校の目標値は達成できなかったが大阪市の目標値は達成した。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、88.7%で前年度の87.5%よりいじめに対し「あっていけない」と思う児童の割合を向上させることができた。
- ・「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にすることができたが、目標値にはわずかに届かなかった。また、最も肯定的な回答が半数以下あった。この割合を増やしていく取り組みが必要である。
- ・「なかよし班活動で協力して（力を合わせて）楽しむことができた。」と答える児童の割合は94.8%となり、異学年交流を継続的に続けてきた結果が出ている。
- ・「友達の良いところを見つけている」という旨の回答の割合を89.2%であり、昨年度より肯定的回答の割合を向上させることができた。他者に対する良いところを見つける意識が定着しつつある。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・基礎基本を重点に置いた授業づくりをどの学年も行い、自力解決や話し合い、練習問題の取り組みなど様々な方法で学力の向上に努めた。学力経年調査では、すべての学年・教科で大阪市平均であった。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は40.8%にとどまった。
- ・「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は68.5%となり目標を達成することができた。昨年度課題であった楽しく体を動かし体力の向上ができるカリキュラム・取り組みを検討し、休み時間や体育などの活動内容を工夫した結果である。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間におきていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合は76.5%となり目標を達成できた。しかし、4分の1の児童が、否定的な回答であるため引き続き睡眠の大切さを伝えていくとともに、家庭と協力し目標を達成できるようにする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・タブレット端末の活用については、授業中や児童の相談機能やこころ天気の話だけではなく、朝学習や授業終わりやスキマの時間、宿題などの家庭学習でデジタル教材（デジタルドリルやスタサプ）を活用した。端末の稼働率は、2学期からは毎月80%以上稼働したが、目標を達成できなかった。来年度も引き続き本年度の取り組みを継続していく。
- ・教職員の働き方改革については、基準1を満たす割合を63%以上としたが、目標を達成することができなかった。来年度は、会議・業務内容の精選を行い、業務改善を図っていく。
- ・読書についての取り組みに関しては、「読書タイム」や「読書週間」、おはなしわくわくや学校司書の取り組みなど、計画通りに進めることができた。また、「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合も1学年を除いて目標値を達成することができた。引き続き蔵書の精選や外部関係諸団体の協力を得ながら児童の本に対する興味関心をもつ取組を行っていく。

(様式2)

大阪市立三津屋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。 (大阪市R7目標) 【80.5%】 (R7年経年) 【85.9%】</p> <p>○学校アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を88%以上にする。 (R7年最終) 【いじめはダメ 最88.7% 肯定的96.2%】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を91%以上にする。 (R7年経年) 【最48.0% 肯定的90.6%】</p> <p>○学校アンケートで「なかよし班活動で協力して(力を合わせて)楽しむことができた。」と答える児童の割合を80%以上にする。 (R7年最終) 【最73.3% 肯定的94.8%】</p> <p>○学校アンケートで「友達の良いところを見つけている」という旨の回答の割合を88%以上にする。 (R7年最終) 【最58.1% 肯定的89.2%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>全学級で学期に1回いじめアンケートを実施し、現状を把握し、早期対応ができるようにする。また、スクールライフノートの心の天気や相談機能でいつでも個別に対応ができるようにする。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回いじめアンケートを行う。 ・日頃の児童の様子を観察するとともに、スクールライフノート学校生活ウォッチャーで毎日1回以上確認する。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学級や学年だけでなく、教職員全員で学校全体の活動を通して、きまりを守る大切さを考えられるようにする。また、各学級の個別の課題に、学年、生徒指導部会、学校全体等の組織で対応するとともに、隔週の終礼、毎月のいじめ虐待対策委員会で、情報共有を図る。</p>	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三津屋の安心ルールや服装のきまりを配付し、家庭と連携する。 ・毎日の看護当番、毎週の全校朝会、毎月の生活目標を通して、きまりを守る大切さについて考えられるようにする。 ・月1回の生徒指導部会や毎週の終礼、毎月のいじめ虐待対策委員会で、課題の情報共有を行う。必要に応じて、関係諸機関と連携を図る。 	
<p>取組内容③【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学級だけでなく教育活動全体を通じて、認め合い、支え合う集団作りを実践する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査で「友達の良いところを見つけている」という旨の回答の割合を88%以上にする。 	B
<p>取組内容④【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>他者を敬う心を育成するため、児童が主体的に取り組む縦割り班活動を実践する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回以上、児童が主体的に計画・運営する縦割り班活動を実施する。 	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組1】</p> <p>いじめアンケートを計画的に実施し、回答内容からいじめが疑われる事案については児童への聞き取りを行い、解決につなげることができた。アンケートは、いじめの早期発見に役立った。また、「心の天気」を活用して児童の気持ちや様子を把握し、気になる児童には教員から声掛けを行った。</p> <p>個人の端末でも相談できる仕組みについても児童に周知したことで、実際に相談の利用があり、児童理解を深めることにつながった。</p> <p>あわせて、いじめは絶対に許されない行為であることを児童に意識させる指導を大切にしてきた。</p> <p>【取組2】</p> <p>学年や学級で、学校生活のきまりやルールについて考える時間を設けた。さらに、全校朝会で生活目標について話をしたり、看護当番の活動を通してルールの大切さを考えたりする機会を設けた。その結果、きまりを守ろうとする児童は増えてきている。一方で、学年だよりを通じて家庭との連携も図ったが、家庭によって取組への差が見られた。</p> <p>また、学校のきまりが多いため、守れていることと守れていない課題が混在している。特に、廊下や階段の歩き方については年間を通して十分に守られていない状況が見られる。</p> <p>【取組3】</p> <p>設定した指標は達成することができた。</p> <p>学級では、「いいところみつけ」「ごちゃまぜビンゴ」「アンガーマネジメント」「誕生日ビンゴ」「コンセンサスゲーム」「作文」など、さまざまな活動に取り組んだ。</p> <p>これらの活動を通して、友だちの良いところに気づき、認めることができる児童が増えてきた。</p> <p>【取組4】</p> <p>6年生を中心に、計画的に取り組むことができた。三津屋フェスティバル、全校オリエンテーリング、集会などで、縦割り班による活動の機会を多く設けた。また、6年生が不在の際には、5年生や4年生が主体となって活動を進める姿も見られた。</p>	

次年度への改善点

【取組1】

日常の児童の様子を丁寧に見取り、必要に応じた声掛けを継続するとともに、児童が困ったときに周囲の人へSOSを出しやすい人間関係づくりを一層進め、安心して相談できる環境づくりの充実を図る。

相談機能については児童理解につながる有効な取組である一方、相談の趣旨と異なる内容で利用される場合も見られたことから、相談機能の目的や活用方法について児童へ改めて周知し、適切な利用の徹底を図る。

また、「心の天気」の活用については、個人用タブレットの使用状況を踏まえ、入力率〇%といった具体的な指標を設定し、取組の定着を図る。あわせて、通信環境の不安定さや端末の持ち帰りによる未持参等により活用できない場面があったことから、端末の管理や活用方法について改善を進め、継続的に活用できる体制づくりを図る。

【取組2】

児童指導に関する情報については、共有すべき内容を確実に共有し、教職員間の共通理解の徹底を図る。また、指導内容については生活指導部だけでなく、学校全体で協議しながら進める体制を整え、組織的な児童指導の充実を図る。

【取組3】

児童が自分の良さに気づくことができるよう、「自分のよいところを見つける」取組を引き続き継続し、自己肯定感の向上を図る。一方で、否定的な意見をもつ児童も見られることから、そうした児童への支援の在り方を検討し、指導方法の工夫を進める。

【取組4】

児童数の増加を踏まえ、縦割り班活動等の実施において、班編成の在り方や活動場所の確保について見直しを行う。児童が安全かつ円滑に活動できるよう、実施方法の改善を図る。

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりの基礎・基本を重点に置いた授業研究を、全員が年間1回以上行い、相互に指導・助言し合う。 	
<p>取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>「三津屋タイム」（朝の学習の時間）、「家庭学習の手引き」（保護者向け資料）を活用し、基礎的・基本的内容の定着と学力の底上げを図る。また、「自分の日」を実施することで学習意欲の向上を図る。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての学級で、毎週2回、「三津屋タイム」に国語・算数を中心とした基礎的・基本的内容の繰り返し学習を行う。 ・すべての学級で、最初の懇談会の際に「家庭学習の手引き」を活用して自主学習習慣の定着について啓発をする。また、全学級で学期に1回以上、児童に対してその内容に基づく指導を行う。 ・月に1回、「自分の日」を設定し、学習意欲の向上を図る。 	B
<p>取組内容④【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】</p> <p>体力向上のための運動機会の設定や、場の設定をする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上「ぐんぐんスポーツ」として、運動委員会を中心に、全校（各学級ごと）で運動する機会をもつ。 ・教職員に向けた研修を年に6回以上行う。 <hr/> <p>取組内容⑤【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】</p> <p>睡眠の重要性について、学校の指導、家庭への啓発を通して意識を高めるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康委員会を中心に、月に1回「キラキラチェック」を行う。 ・年に1回、学校保健委員会による睡眠についての啓発を行う。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組1】</p> <p>各学年の児童の状況や発達段階に応じて、ペア活動、グループ活動、全体での交流など、さまざまな形で意見を伝え合う活動を行った。活動の中では、ただ話を聞くだけでなく、相手の意見に共感したり質問したりするなど、よりよい表現や伝え方を考えながら交流することを大切にして取り組んできた。</p> <p>アンケート結果では、「とてもそう思う」と回答した割合は51%であったが、「そう思う」を含めた肯定的な回答の割合は87%となった。</p> <p>【取組2】</p> <p>計画どおり実施することができた。研究授業や授業公開の場では、さまざまな立場の教員から助言や講評を受けることができ、それらを授業改善に生かすことで教員の授業力の向上が見られた。</p> <p>【取組3】</p> <p>学級の実態に応じて、週2回「三津屋タイム」の時間を設け、基礎的な計算練習やコグトレ、デジタルドリル、スタディサプリなどを活用し、基本的な学習内容を繰り返し取り組む機会を設けた。</p> <p>家庭学習の手引きを年度当初の懇談会で保護者に配付し、学年ごとに家庭学習の具体例を示すことで家庭での学習習慣の定着に向けた啓発を行った。また、各学級でも学期に1回以上、自主学習の進め方について指導を行った。</p>	

月に1回「自分の日」を設けることで、新しいことに挑戦したり、家族と協力して取り組んだりする時間を作ることに繋がった。

【取組4】

「ぐんぐんスポーツ」は計画どおり実施することができた。また、次年度の「ぐんぐんスポーツ」に向けた取組も行うことができた。さらに、体育科の研究授業やさまざまな運動領域に関する研修を実施し、教職員の体育授業の指導力向上に努めた。

【取組5】

学校保健委員会を中心に、年間を通して「キラキラチェック」を実施した。また、睡眠の大切さについて関心を深めることを目的とした発表を行い、児童の生活習慣の改善につながる取組を進めることができた。

次年度への改善点

【取組1】

児童アンケートにおける肯定的意見の割合については、「そう思う」を「最もそう思う」と感じられる状態へ高めていくための方策を検討し、取組の質の向上を図る。次年度は「最もそう思う」の割合を52%とすることを目標として設定し、児童の実感を高める取組を進める。

【取組2】

授業力の向上を図るため、次年度も引き続き授業研究に取り組み、授業改善を継続的に進める。

【取組3】

基礎学力の定着を図る取組として、「三津屋タイム」は今後も継続して実施する。また、「自分の日」については、学習意欲の向上を目的として設定しているが、実際には家族での過ごし方を考える日となり、家族と遊んだり家の手伝いをしたりするなど、普段できないことに時間をかけて過ごしている様子も見られた。これが「自分の日」の趣旨と異なる場合には、取組の目的について児童や家庭へ丁寧に説明する必要がある。

一方で、宿題がない日として喜んでいる児童も見られることから、取組の提示の仕方や意識づけについて検討し、目的を意識した取組となるよう改善を図る。

【取組4】

児童の体力向上を目的として、次年度も継続的に取組を進める。その際、運動場の規模や児童数の状況を踏まえながら、活動内容や実施場所について工夫を行い、効果的な取組となるよう改善を図る。

【取組5】

睡眠やスマートフォンの使用、ハンカチ・ティッシュなどの持ち物を含めた生活習慣について、児童の実態に応じたテーマを設定し、日常生活の改善につながる取組を継続して実施する。また、家庭に対しても継続的に啓発を行い、家庭と連携した生活習慣の改善を図る。

大阪市立三津屋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の82%以上にする。</p> <p>(大阪市R7目標) 【35%】</p> <p>(R7年度実績) 【4月結果なし 5月29% 6月28% 7月61%】 【8月50% 9月95% 10月85% 11月61%】 【12月82% 1月86%】</p> <p>○第2期「学校園における働き方推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を63%以上にする。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>(1) 基準1 次のア及びイの基準を満たすこと</p> <p>ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること</p> <p>イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること</p> </div> <p>(大阪市R7目標) 【53%】</p> <p>(R7年度実績) 【53.4%】</p> <p>○学校アンケートにおける「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。</p> <p>(R7年最終) 【1年92.0% 2年78.6% 3年78.2%】 【4年78.0% 5年56.8% 6年69.8%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DXの推進】</p> <p>朝学習の時間やスキマ時間、家庭学習において、デジタル教材や一人一台学習者用端末を活用した学習を実施する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>・デジタル教材、または一人一台学習者用端末を活用した朝学習、スキマ時間学習、家庭学習を週1回以上実施する。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向6、教育DXの推進】</p> <p>一人一台学習者用端末を活用した授業を実施し、ICTを用いた児童の意見の交流ができるようにする。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>・一人一台学習者用端末を活用した授業を学期に1回以上実施する。</p>	B

<p>取組内容③【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員の働き方改革に関して勤務時間の最適化を図る。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議等を設定しない「ゆとりの日」を設定する。 ・水曜日に会議を設定し、16時半までに終了する。 ・学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、冬季休業期間中は2日以上設定する。 	
<p>取組内容④【基本的な方向8、生涯学習の支援】 読書週間の「読書にチャレンジ」と読書記録カードを一体化し、自分の読書歴や読書量を振り返ることができるようにする。それにより、普段の読書に対する意識・意欲を高め、習慣化を図る。また、読書量・読書傾向などを把握しやすくし、日々の読書指導に生かす。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で、年間を通して、統一の読書記録カードを活用して読書指導を行い、読書目標達成率を昨年度（68%）以上にする。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向8、生涯学習の支援】 読書週間の定着を図るため、「読書タイム」を実施するとともに、学期に1回、全校での「読書週間」を設定する。また、学校司書や地域ボランティアによる読み聞かせの機会を設けるとともに、その活動と連携し、読書への関心を高める。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての学級で、週1回、「読書タイム」を実施するとともに、学期に1回全校での「読書週間」、年1回「絵本展」を設定する。 ・すべての学級で、隔月に1回以上、地域ボランティアの活動と関連させた読書活動を行う。 ・すべての学級で、年1回以上、学校司書による読書指導や読み聞かせを行う。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組1】 各学年の実態に応じて、デジタル教材を効果的に活用することができた。学校での短い空き時間には「ナビマ」を活用し、宿題には「スタディサプリ」を使用するなど、状況や目的に応じて使い分けながら学習を進めた。 また、長期休業中の課題にもこれらの教材を活用することで、児童の課題の達成状況を確認することができた。これにより、児童一人ひとりの理解度を把握し、長期休業明けの学習支援にもつなげることができた。</p> <p>【取組2】 低学年では、「スカイメニュー」を活用し、家庭でのお手伝いの様子を写真に撮る活動や、国語の物語づくりの学習で絵を描いてクラスで共有する活動、タブレット端末を見せ合いながら学習する活動などを行った。高学年では、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行ったり、児童同士で資料を共有しながら意見交流を行い、考えを深める活動を実施した。このような活動を通して、児童自身も端末を活用した学習の経験を積んでいることを実感している様子が見られた。一方で、発達段階の点から、端末を活用した交流活動についてはまだ難しい面も見られる。</p> <p>【取組3】 会議を16時30分までに終了することについては、実際には難しい場合も多い。16時30分までに終了できている場合もあるが、できていない場合も見られる。</p>	

会議内容を精選し、時間短縮の工夫を行うことは重要である。しかし、学校の会議は子どもに関わる重要な内容を扱うため、無理に会議を早く終わらせた結果、十分な検討ができないまま問題が生じることは避ける必要がある。そのため、時間短縮だけに重点を置くのではなく、子どもにとって必要な会議については、適切な時間を確保したうえで丁寧に実施していくことが重要である。

【取組 4】

読書記録カードの活用や、自分自身で読書目標を設定する取組を行ったことで、児童が主体的に読書に取り組む姿が見られ、読書量の増加につながった。また、「本が好きになった」「本を読むことが楽しいと初めて思った」「もっと本を読みたい」といった前向きな声を伝えてくる児童も増えた。一方で、学年の実態にもよるが、じっくりと読書に取り組む児童が固定化している面も見られた。また、学校では読書に親しんでいても、家庭での読書の様子が把握しにくいという課題もある。

【取組 5】

「学校司書」による読み聞かせや読書活動は、学年に関係なく効果的であり、児童が物語の世界に入り込み、読書への興味や関心を高める機会となった。また、地域ボランティアによる読み聞かせについても、どの学年でも集中して聞く様子が見られ、児童の読書習慣の定着につながる取組となった。

次年度への改善点

【取組 1】

学年や児童の実態に応じたデジタル教材の活用を引き続き進める。一方で、紙と鉛筆による学習の重要性が改めて見直されていることや、タブレットのみの学習には課題も指摘されていることを踏まえ、デジタル教材の利点と課題を十分に理解したうえで、目的に応じた適切な活用を図る。

【取組 2】

写真や絵、データの共有や作成など、学年の発達段階に応じた端末活用や交流の方法について、引き続き工夫を行う。また、学年が上がるにつれて活用できる内容が広がるよう、体系的な ICT 活用の取組を進める。

【取組 3】

業務内容の見直しや時間短縮の工夫など、働き方の改善に向けた取組を継続して進める。その際、学校として必要な業務と削減できる業務を整理し、学校全体で共通認識をもって検討を進めるとともに、会議の在り方や働き方、学校としての方向性についても継続的に見直しを図る。

【取組 4】

児童の読書意欲の向上に向けて、次年度も継続的に取組を進める。読書カードは、児童が自分の読書歴や読書量、目標を振り返ることができる有効な取組であるため、記入する時間の確保に努めるとともに、記入を忘れてしまう児童への声掛けを丁寧に行う。また、本に親しむ児童を増やすため、教職員同士の情報交換や資料の共有を進め、読書活動の充実を図る。

【取組 5】

児童の読書習慣の定着に向けて、引き続き継続的に取組を進める。また、これまで1年生のみを対象に実施していた図書室の利用方法に関するオリエンテーションを、年度当初に全学年で実施することで、すべての児童が適切に図書室を利用できるようにし、読書環境の充実を図る。

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立三津屋小学校協議会

1 総括についての評価

- ・本年度の学校の自己評価結果は妥当である。
- ・アンケートでは、いじめがいけないことだと認識していない児童がいる。これらの児童に対して話を聞き、いじめはなぜいけないのかを指導し倫理面での指導も必要である。また、自分の口では訴えることやアンケート等で出てこない「ひそんだいじめ」がある。こころの天気やタブレットの相談機能も活用しつつ、学校は家庭との連携、児童に目配りを行いいじめについてこれまで以上に取組んでもらいたい。
- ・社会ではスマートホンでのトラブルやいじめが後を絶えない。三津屋小学校でもこのようなトラブルが増加していると聞いている。SNSやインターネットを扱ううえでのメディアリテラシーを育てるとともに情報モラルやSNSの危険性なども子どもたちに教えていくことが必要である。
- ・他者のよいところを認める姿勢は、定着してきている。今後は、自分の良いところや自己肯定感・自己有用感を育てていく取り組みをしてほしい。
- ・学習について、単元単元で学習が途切れてしまわないように授業以外にも基礎基本が定着するように取り組んでほしい。学年が上がるにつれ授業についていけなくなる児童も多くなる。日々の取り組みの中で基礎基本の計算力や読解力を定着させる取り組みを行い基礎基本の定着に努めてほしい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。
- 学校アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を88%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を91%以上にする。
- 学校アンケートで「なかよし班活動で協力して（力を合わせて）楽しむことができた。」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 学校アンケートで「友達の良いところを見つけている」という旨の回答の割合を88%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を42%以上にする。
- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。

○年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間におきていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の82%以上にする。

○第2期「学校園における働き方推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を63%以上にする。

(2) 基準1 次のア及びイの基準を満たすこと

ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること

イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

○学校アンケートにおける「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。

評価

【安全・安心な教育の推進】

- ・アンケートでは、いじめがいけないことだと認識していない児童がいる。これらの児童に対して話を聞き、いじめはなぜいけないのかを指導し倫理面での指導も必要である。また、自分の口では訴えることやアンケート等に出てこない「ひそんだいじめ」がある。こころの天気やタブレットの相談機能も活用しつつ、学校は家庭との連携、児童に目配りを行いいじめについてこれまで以上に取組んでもらいたい。
- ・社会ではスマートホンでのトラブルやいじめが後を絶えない。三津屋小学校でもこのようなトラブルが増加していると聞いている。SNS やインターネットを扱ううえでのメディアリテラシーを育てるとともに情報モラルや SNS の危険性なども子どもたちに教えていくことが必要である。
- ・不登校の課題は年々多様化し、複雑化していることから、継続して学校組織全体で総力を挙げて課題解決を目指し取り組んで欲しい。
- ・他者のよいところ認める姿勢は、定着してきている。今後は、自分の良いところや自己肯定感・自己有用感を育てていく取り組みをしてほしい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・経年調査を見る限り、大阪市の平均であることがわかる。強みも弱みも大阪市と同様なので引き続き弱みの部分を克服できるように日々の授業に努めてほしい。
- ・学習について、単元単元で学習が途切れてしまわないように授業以外にも基礎基本が定着するように取り組んでほしい。学年が上がるにつれ授業についていけなくなる児童も多くなる。日々の取り組みの中で基礎基本の計算力や読解力を定着せせる取り組みを行い基礎基本の定着に努めてほしい。
- ・体力向上については、引き続き落ちた体力や運動に関する関心を高めるように努めてほしい。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・児童の端末の使用は定着してきていることがわかった。しかし、情報モラルや SNS の危険

性なども子どもたちに教えていく必要がある。

- ・読書についての取り組みに関しては、引き続き「読書タイム」や「読書週間」、おはなしわくわくや学校司書の取り組みなど、計画的に進めてほしい。
- ・昨年に引き続き読書に力を入れ取り組み読書量が増えたことはわかった。クラスにより差があったと報告を受けているので、来年度は教員間での意思疎通を図り差がなくなるよう取り組んでほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・本地域には、好奇心がありやるきに満ちて学ぼうとする素直な子が多いため、そのよさが失われないような教育活動がすすめられることを期待する。
- ・学校だけでなく、家庭の教育力向上も重要である。協力する保護者が増えるよう、ねばり強く連携していく必要がある。スマートホンの使い方などモラルについて取り組みを行って欲しい。
- ・個に応じた指導をより充実させ、基礎・基本の定着をさせ長文を読みこなしたり、短く文にまとめたりする力を身につけさせる取り組みを引き続きすすめてもらいたい。
- ・算数科においても、最低限の計算ができるよう基礎学力を高めていく取り組みを進めてほしい。
- ・来年度は、創立百周年である、学校、家庭、地域で連携し児童の思い出に残る式典にしてもらいたい。
- ・日々の教育活動を充実させ、本年度課題であった項目について改善して行ってほしい。